

2016全日本ロードレース選手権最終戦鈴鹿  
MFJ-CUP JP250クラス  
**参戦報告書**

---

■エントリー名: TRICK STAR Racing

■監督: 鶴田竜二

■ライダー/ゼッケン: 田中 歩 (#82)  
兵藤龍之介 (#111)  
藤村太磯 (#13)

■開催日/サーキット: 2016年11月3日(木)~11月5日(土)  
: 鈴鹿サーキット

■マシン: カワサキNinja250

■結果: 田中歩 予選 1位 決勝 1位  
: 兵藤龍之介 予選 33位(INT14位) 決勝23位(INT12位)  
: 藤村太磯 予選 5位(NAT1位) 決勝6位(NAT2位)

MFJ CUP JP250クラス最終戦がモータースポーツの聖地鈴鹿サーキットにて開催されました。

最終戦ということもあり参加台数68台という過去最高の盛り上がりを見せハイレベルな戦いが繰り広げられることが予想されます。

TRICK STAR Racingではシーズン中盤から参戦した 田中 歩 選手がランキングトップの佐野選手と2ポイント差でランキング2位につけチャンピオンの可能性を残して最終戦を戦っていきます。



# TRICK STAR

## 【11月5日(土) 公式予選】

Qualify Aグループ 8:00~8:20(田中、藤村)

Bグループ 8:35~8:55(兵藤)

天候:晴れ コース:ドライ

### Aグループ #82 田中,#13 藤村

田中選手は後方から予選をスタートしスリップストリームを使いながらタイムを出す作戦でいくがコーナーで詰まり過ぎてしまいベストなアタックができずにいるが序盤からトップタイムをマークしていく。

一方藤村選手は前方から予選をスタートしてペースの速いライダーとともにタイムアップを図る。

残り時間的にもラスト1周となったところで田中選手が集団のトップに立ち単独アタックを開始して今回のポールタイムとなる2.34.135を記録する。その後方で必死に食らいつきアタックをした藤村選手も自己ベストタイムである2.35.757を記録して暫定3位で予選を終える

### Bグループ #111兵藤

Bグループの中ではペースのいい集団の中で走行をしているがAグループよりも集団のペースが1~2秒遅く集団に埋もれてしまっている。最後まで集団のなかでタイムアップができず2.38.684でクラス13位で予選を終える。

総合順位では田中選手1位、藤村選手5位、兵藤選手33位となる。

## 【11月5日(土) 決勝レース】

Final 14:25~ 8 Laps

天候:晴れ コースコンディション:ドライ

ポールシッターの田中選手がホールショットをきめて藤村選手も5番手とまずまずのスタートを切る。そのまま田中選手がトップを走り積極的にペースを上げて集団を引き離そうとしていくが後続を引き離すことができず5台での優勝争いとなる。

レース中盤トップ5台に藤村選手を含むナショナル勢3台が追い付き8台でのトップ争いとなる。

5周目のシケインでこれまでトップを走行していた田中選手が3位まで順位を落としてしまうがすぐに1コーナーで抜き返しトップに戻る。6周目のシケインで安田選手が田中選手のインを差してトップに立つがそのままコースアウトをしまい田中選手がすぐさまトップを奪い返す。このあたりからチェッカーに向けてのバトルが激化していく。

7周目も激しいバトルのなか田中選手3位、藤村選手6位で通過しファイナルラップに入っていく。

しかしこの週のバックストレートで後続のライダーの接触転倒事故が発生しすべての選手が7周目を終えていないため6周終了時での赤旗中断となる。

レースが3分の2を経過していたことからレースは赤旗を持って成立し6周目のリザルトで田中選手が優勝、藤村選手が6位(国内2位)、なかなかペースが上げられず厳しい戦いとなってしまった兵藤選手が23位という最終結果となりました。

田中選手がインタークラスの初代シリーズチャンピオンに輝きトリックスターレーシングは開幕戦から全戦全勝を達成しました。



# TRICK STAR

## 【田中歩選手 コメント】

事前スポーツ走行からマシンライダー共に調子が良く万全の態勢で最終戦を迎えました。

### 予選 1位

スリップを使いタイムを出す作戦だったので、後ろからコースイン。2周目に35.0でそこから更にタイムアップを狙いましたが、他ライダーにひっかかりタイムアップが出来そうになかったため、最終ラップに単独でタイムを出しに行きました。結果2.34.135で総合でもトップで終える事が出来ました。

### 決勝 1位

スタートが決まりホールショットでそこから単独で逃げようとしたのですが逃げる事が出来ず3,4台のトップ争いとなりました。

ランキング1位の選手はトップ争いにいなかったのもこのままゴールすればチャンピオンが決定する条件でしたがチャンピオンを意識するより全戦で優勝する事しかありませんでした。終盤は逃げれそうになかったためどうすればトップでシケインを立ち上げる事を考えていたところで、赤旗でそのままレース終了となりました。

前の週の順位で無事に優勝でシリーズチャンピオンを獲得することができました。

第3戦の茂木から出場するチャンスをチームから貰い3戦全勝でJP250のシリーズを終える事ができ嬉しく思っています。

これも毎戦素晴らしいバイクを準備して頂いたチームをはじめ、スポンサー様、応援して頂いている皆様のおかげです。ありがとうございました。

今回のレースでもまだまだ未熟な部分があったのでこれを第一歩に12月に行われるアジア選手権の最終戦タイラウンドも優勝できるよう頑張ります。

引き続き応援宜しくお願い致します。



## 【 兵藤龍之介選手 コメント】

### 予選 33位

路面はドライで予選の時間は20分で、行われました。

早いうちから出て行ってなるべく集団にならないように行っただのですが2週目ぐらいから、集団になってしまい、なかなか抜け出すことが出来ず最終ラップに少し東コースの2コーナーや逆バンクでフロントが跳ねあまりタイムを縮めることが出来ずグループBでは13位総合結果で33番グリッドに成ってしまいました。

### 決勝 23位

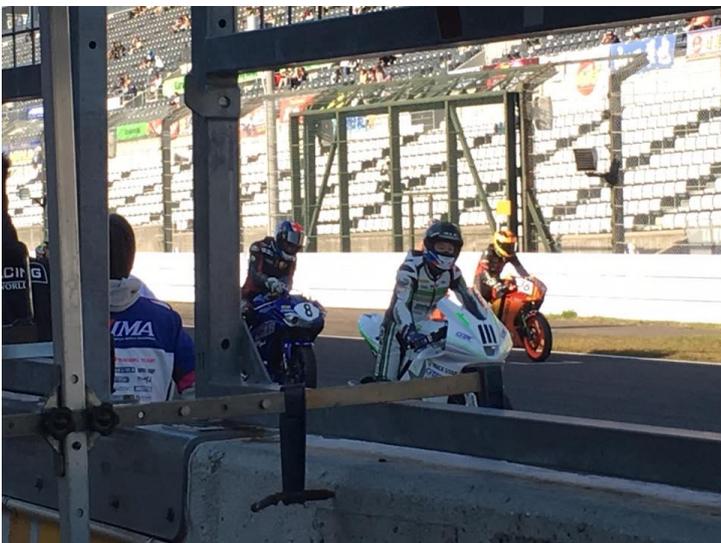
スタートをうまく決まることができ8台くらい抜く事が出来たのですが、1週目に目の前で転倒したライダーがいて、集団から離れてしまいました。

2週目から集団の先頭で前の集団に追い付こうとプッシュしましたが後ろのライダーを引き離すことが出来ず抜きつ抜かれずのバトルになってしまいなかなか前の集団に追いつく事が出来ませんでした。

東コースの2コーナーや逆バンクでのフロントの跳ねも出ていて何度かコースから飛び出そうになりとても厳しい状態だったのですが、残り3週ぐらいの時に前の集団まで追いつきそうなところまで追ったのですが裏ストレートで転倒しているライダーがおりこのアクシデントで赤旗中断となりそのままレース終了に成ってしまい23位と、とても悔しい結果に成ってしまいました。

地元のコースなのに悔しい結果に成ってしまい自分の弱さがはっきりとわかりました。オフシーズン中にしっかりと自分の弱いところや遅いコーナーをどうゆうふうにするか、早く走れるかをしっかりと調べて、イメージトレーニングをして、来シーズンは今回のような悔しいレースにならないように結果の残るレースになるように準備していきたいです。

最後に今年1年間応援して下さいましたファンの皆様、スポンサー様、チームの方々、本当にありがとうございました。



## 【 藤村太磯選手 コメント】

予選 5位 2.35.757(NAT1位)  
決勝 6位 (NAT2位)

岡山MFJCUP以来の高速コースでの走行なので、1本目、2本目とも中古タイヤで走行し、マシンチェックを行いました。アドバイザーとして山本選手、長谷川さんに来て頂いたので、コースサイドで走りを見て頂き、指導を受けました。マシンはエンジン、車体共に問題がありませんでしたので、2本目もセッティングは殆ど変更せず、乗り手の方でライン取りと操作方法の改善を行いました。2本目は単独での走行でペースよく走行できました。

金曜日はレースを見越して新品タイヤで走行を行いました。

新品にしたことにより、場所によってはチャタリングが発生し、前日よりもタイムを落とす結果となりました。メカの方と共に原因を考え、明日の予選、決勝に向けてセッティング、乗り方について話し合いを行いました。

### 予選

予選は後ろの方から出走し、ペースの速い選手と共に走行をして最後の週にベストタイムをだしました。マシンのチャタリングは相変わらず場所によっては起こっていましたが、金曜日よりは小さくなっていたのでレースに向けてあまり気にしすぎないようにしました。

それよりも、スタートと作戦についてしっかりと頭の中でシミュレートし、どんなことが起こっても必ず生き残り、トップ集団の中でレースできるように考えました。

決勝のスタートはまずまずで、5番手で1コーナーを通過し、上位集団に遅れないようについていきました。途中何度か後続に抜かれてしまいましたが、上位集団に離されないように冷静に自分の走りを詰めていきました。

8周目には5番手を走行し、S字、デグナー、スプーンで集団に食らいつき、西ストレートで追い上げ、最終シケインで勝負できる位置で走行していたところで、赤旗が掲示されました。この赤旗により、前の週の順位が正式結果となりました。茂木と同じく重大事故での赤旗でどうしようもなく、自分の目標としていた国内クラス優勝という結果にはあと一歩届きませんでした。

しかし、上位集団に大きく離されることなく、最終ラップに勝負できる位置で走行したことで得られた物がありました。

また、今年のMFJCUPのベストリザルトをホームコースである鈴鹿サーキットでお見せでき、良かったと思います。

チーム関係者、スポンサー様のおかげでMFJCUPを無事終わられました。改めて感謝いたします。

そして、もう一つの目標である国際ライセンス昇格のためのレースが鈴鹿サーキットで11月27日に行われます。こちらでは今回成し遂げられなかった優勝をなんとしても勝ち取るために気合を入れて頑張りますので、応援よろしくお願いたします。

